奨学金 受給候補者申請書

No.1						提出日	:	平成	年	月	日
氏 名	1			性	別			□男	• []女	
カタカナ	-			生年月	日		年	月	日生ま	ミれ (歳)
現在籍課程入学年度((平成 年	三度	□4月	• [10月		コ入学・	□編入賞	全)	
課程· 学年	□学部]学部		学科	学科 年 学生番号(8けた)			けた)			
	□博士前期課程			専攻		年					
	□博士後期課程		専攻		年						
休学歴	□なし・□あ	っり(理由:□症	気・	□留学	• 🗆	そのほ	か〔])
指導教員	名またはアドバイ	・ ザー教員名									
現住所			1								
電話番号	-		Е-	-mai	1						
		□日本学生支	援機	構(JA	ASS	SO) >	※第 1	種•第	52種・併	用	
	現在もらって	期間	年	月~	J		年	月	月額		円
	いる奨学金	□その他〔]					
		期間	年	月~			年	月	月額		円
/57 ひた A	過去にもらっ	奨学金名〔	<i>F</i>								
奨学金 受給状況	たことがある	期間	年	月~			年	月	月額		円
文和小仍	奨学金	奨学金名〔 期間	年	 月~			年	 月	月額		円
		奨学金名〔] 71 100		1 1
	現在、申請中の 奨学金	期間	年		<u> </u>		年	 月	月額		円
		奨学金名〔)		
		期間	年	月~	J		年	月	月額		円
奨学金を	希望する理由										

	1. 奨学金		月額(円)				
収入状況	2. アルバイト		月額(円)				
	3. 仕送り		月額(円)				
	4. その他		月額(円)				
	合 計		月額(円)				
	※一緒に住んでいる親子・兄弟・カップル等。 法律上、籍を入れていない場合も含みます。									
居住場所で	口いない									
家計を共にする者	□いる									
ソる伯	家計を共にす □なし・□あ		収入 会社給与/アルバイ	′ ト給与 ・ 奨:	学金 • ·	その他[])				
	※これまで授業料免除をされたことがあれば、以下に <u>新しい順に</u> 記入してください。									
	□平成	年度	前期	□全智	預免除	□半額免除				
	□平成	年度	後期	□全智	預免除	□半額免除				
授業料免除について	□平成	年度	前期	□全智	預免除	□半額免除				
	□平成	年度	後期	□全額	預免除	□半額免除				
	□平成	年度	前期	□全額	預免除	□半額免除				
	□平成	年度	後期	 □全額 	頂免除	□半額免除				
	※国際交流に関し、情報提供者側として行った活動や、ボランティア活動があれば、記入してください。(例:外国人スピーチコンテスト発表、小学校での出身国紹介、地震									
	避難者へのボランティア活動等)									
	年/月		イベント名	開催地		活動内容				
日本に対する貢献及び										
社会活動										
				l						

研究業績

- 注意 1. 学部生と博士前期の学生は、学部1年から、博士後期の学生は、博士前期(修士)1年から現在までの業績が対象です。出身大学における業績も含みます。
 - 2. 対象となる論文は、本人が第一著者 (The first author)のものです。学会誌に掲載されたものが対象です。口頭発表の予稿集や市の広報誌や交流誌への掲載は対象外です。
 - 3. 対象となる発表は、本人が行ったものだけです。
 - 4. 執筆した論文を申請書と一緒に提出してください。

	査読の有無	文献情報				
		・〔著者名,"標題," 雑誌名,巻,号,ページ,年月〕を記入				
	例 1	Petar S.Kormushev, Kohei.Nomoto, Fangyan Dong, and Kaoru				
	ו נילן	Hirota: "Eligibility Propagation to Speed up Time Hopping for				
	≪英語論文の場合≫	Reinforcement Learning, " Journal of Advanced				
	査読 ■あり □なし	$Computational\ Intelligence\ and\ Intelligent\ Informatics,\ vol. 13,$				
		no.6, pp.600-607 (Nov. 2009).				
	例 2	・〔著者名,"標題," 雑誌名,巻,号,ページ,年月〕を記入				
		伊藤 和明 , 三木 啓光 , 大場 好弘, 非環状フェノールーホルマ				
	《日本語論文の場合》	リン系オリゴマーと四級アンモニウム塩との相互作用 , 薬学雑				
í	査読 ■あり □なし	誌 , 122 (6), pp.413-417, 2002 年 07 月				
	査読 □あり □なし					
Α.						
学術論文						
	査読 □あり □なし					
	査読 □あり □なし					
	査読 □あり □なし					

110.4							
	例 1 ■国際学会発表 □国内研究会発表 □国内大会	「著者名, "標題, " 会議名, 論文番号, ページ, 年月〕 K.Arakawa and K.Nomoto: "Nonlinear denoising filter for images with interactive evolutionary computing considering the subjective assessment," IEEE Conference of Soft Computing in Industrial Applications (IEEE SMCia) 2008, pp.264-268 (June 25-27, 2008, Muroran).					
	何月 2 □国際学会発表 ■国内研究会発表 □国内大会	〔著者名, "標題, " 会議名, 論文番号, ページ, 年月〕 佐藤智弘, 野本弘平: ナビゲーション時における認知地図への局 所的環境情報の利用に関する研究, 第 26 回ファジィシステムシ ンポジウム, TF4-3 (2010.09.13-15).					
	例 3 □国際学会発表 □国内研究会発表 ■国内大会	〔著者名, "標題, "会議名, 論文番号, ページ, 年月〕 松井喬志, 荒川薫, 今村圭子, 野本弘平: 利用者の意図表現に 効な対話型進化計算配色支援システム, 電子情報通信学会総合 会, AS7-2 (2008.03.18-21).					
B. 発表	□国際学会発表 □国内研究会発表 □国内大会	〔著者名,"標題,"会議名,論文番号,ページ,年月〕					
	□国際学会発表 □国内研究会発表 □国内大会	〔著者名, "標題," 会議名, 論文番号, ページ, 年月〕					
	□国際学会発表 □国内研究会発表 □国内大会	〔著者名,"標題,"会議名,論文番号,ページ,年月〕					
C. 特許	〔取得者、公開番号、特	上 許名称、年月〕					
D. 賞罰	〔賞名、授与団体、年月〕						
	日本に担合は 日接の書	[b. 17] [2.1. [

※用紙が足りない場合は、同様の書式で追加記入してください。

◎上記提出内容に間違いありません。